

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 南勢校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献するひとを育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し実践する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○県立高等学校活性化計画（平成29年3月）をふまえ、活力ある教育活動を展開する教職員 ○総勤務時間縮減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。</p> <p><地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。</p> <p><中学校> 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。取組内容の中学生及びその保護者への浸透</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。</p> <p><町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。</p> <p><地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。</p> <p><NPO等地域活動団体> SBPを中心とした生徒による地域活性化への貢献。</p>		<p><保護者> 学校と連携した家庭での生活指導。学習活動への協力。</p> <p><町・町教育委員会> 連携型中高一貫教育をはじめ、コミュニティ・スクールとしての発展に向けた協力。高大連携の協力。地元への就職支援。</p> <p><地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。 地元企業の採用増加。</p> <p><NPO等地域活動団体> SBPを中心として、生徒が活躍できる多様な機会の提供。</p>
(3) 前年度の学校運営協議会委員評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・中学生で課題のあった生徒が、本校舎で学校生活を通じて、生徒のプラス部分を伸ばしている。また、中学校の文化祭で高校生の発表を見たが、素晴らしいプレゼンテーション能力である。現在の学校の取組をもっとアピールし、生徒の活動をもっと発信していくことが必要である。 ・近隣中学校生徒との交流活動を活発化させ、中学生が行きたい高校となるよう地道な活動が必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>少数ではあるが多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。また、連携型中高一貫教育による教育の連続性や、様々な町の支援により進学等課外指導・就職支援員による就職支援等で成果を上げている。</p> <p>今後、地域で唯一の県立高校として、少人数教育を行う中でメリットをより活かし、デメリットを最小限にする教育活動方法を構築するとともに、地域や多様な団体からの支援を得て「地域創生アドバンスコース」の教育内容の充実や、地域への貢献も視野に入れたSBP活動・防災活動・防災教育など様々な活動を通じて、魅力的な学校づくりを行う必要がある。</p>	

改善課題

- ・今年度、テスト前に学習時間を設定し生徒の学習意欲の向上を図ったが、個別の指導や支援を必要とする生徒が多く、普段の授業への取組が大切であることを再確認した。
- ・各学年とも落ち着いた状況であるが、新入生の中には生活のリズムなど注意を必要とする生徒も見られる。引き続き様々な生徒に対し家庭、教育相談などと連携し対応していく。
- ・謹慎指導者0人、暴力・いじめ事案0件であるが、行動・考え方等で若い生徒が多く、挨拶、言葉遣い、身だしなみなど基本的な生活習慣の規律を正していくための教育を、継続して行っていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」などまた、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組み	(1)教職員等を対象とした人権教育研修を行います。 (2)特別支援教育についての研修会を実施し、生徒の実態に即した対応が出来るようにします。 【活動指標】人権講演会…年1回、 特別支援教育研修…年1回	(1)南勢地区の小中学校と合同で人権教育研修会を開催した。また、二校舎合同研修で人権教育研修を行った。 (2)スクールカウンセラーをアドバイザーに招き、様々な悩みを抱える生徒についての教員研修会を実施しました。	◎
情報提供による信頼の構築	(1)ホームページによる情報提供 【活動指標】ホームページの更新 年間10回以上 (2)授業公開、学校見学会等の実施 【活動指標】年間2回 (3)コミュニティ通信を発行し、町内すべての中学校の児童・生徒に配付するとともに、町内39自治会に配付し、回覧してもらう。 【活動指標】年3回以上	(1)ホームページを通じて年間100回以上、生徒の様子や学校の取組など情報を発信した。 (2)授業公開と学校見学会を合わせて2回実施した。 (3)コミュニティ通信を年5回発行した。	※
働きやすい職場環境づくり	(1) 総勤務時間の縮減を図るため業務改善に努めるとともに、年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくります。 【活動指標】 ・定時退校日を月に1~2日 ・部活動休養日を週に1日以上 ・放課後に開催される60分以内に終了する会議の割合を50% 【成果指標】 ・時間外労働時間1時間/月削減 ・休暇取得日数1日/年増加 ・月80時間を超える時間外労働者を0人	(1) 定時退校日について、毎月1日実施し、8月は3日間実施した。 (2) すべての部活動において、部活動計画表を作成し、週に1日以上休養日に取り組んだ。 (3) 部活動の指導により、月80時間を超えた時間外労働者1人	※

改善課題

- ・授業公開や学校見学会などを充実させ、地域の方々への学校理解をさらに進める必要がある。
- ・休暇取得や計画的な部活動指導の推進を図り、総勤務時間の縮減を図る必要がある。

5 学校運営協議会委員評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・生徒会を中心に挨拶運動や清掃活動を行っているが、学校全体で生徒の主体的な活動の推進が必要である。・小・中学校に向けて様々な本校の取組をPRしているが、これからも学校の魅力を発信し、小・中学生が本校舎の高校生に憧れを抱くようなキャリアビジョンを示していくことが重要である。そのためには、南勢校舎に魅力を感じてもらえる体制づくりが重要ではあるが、短い時間の中で様々な方法を試してみるよりも、既にある魅力を全面に押し出していく方が効率的である。・度会校舎との一体感を高めるためや、教育の質の確保を担保する上で、度会校舎とのICTを活用した授業の推進が必要である。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・各教科担任や生徒指導、教育相談、家庭等との連携を深め、生徒一人ひとりの学力の向上を図るとともに、基本的な生活習慣や社会的規律の定着の推進に努める。・総合的な学習(探究)の時間や生徒会活動等を通じて、友だちを思いやる気持ちや命を大切にする教育を推進していく。・ICT機器を活用し、授業や学校行事等の教育活動の推進を図る。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・1学期に南伊勢町内の中学生を対象とした高校生活入門講座(学校見学会)の開催や、中学校でのPTA総会・進路説明会において本校舎の生徒や卒業生等の講話を計画する。さらに、様々な活動を通じて中学生やその保護者が本校舎の生徒を憧れのキャリアモデルに感じられるような交流活動の推進に努める。・勤務時間の割振り調整や休暇取得の推進を図り、総勤務時間の縮減に努める。